

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

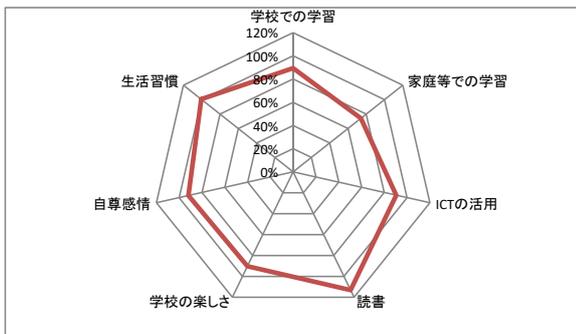
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	どの領域もは、全国より平均正答率を上回った。特に「書くこと」についての正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題。 ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題。	
	努力が必要な問題	○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「変化と関係」の領域では、全国よりも平均正答率がやや下回った。それ以外の領域においては、全国よりも平均正答率は上回り、特に「数と計算」の領域が上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○被乗数に空位がある整数の乗法の計算(1050×4) ○最小公倍数を求める問題。	
	努力が必要な問題	○数量が変わっても割合は変わらないことを理解し、正しいものを選ぶ問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	「地球」を柱とする領域では、全国よりも平均正答率がやや下回った。それ以外の領域においては、全国よりも平均正答率は上回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものかを選ぶ問題。	
	努力が必要な問題	○日光が直進することを理解する問題。 ○問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「身近に本、気軽に読書」を合言葉に、朝自習の時間に読書をしている。「読書は好きですか」の問いに肯定的な回答をした児童の割合は、全国を上回った。 ○平日、土日ともに、「家で自分で計画を立てて勉強する」「家庭学習の時間が1時間以上(土日は2時間以上)」の割合が少ない ○学校での学習において、人と意見が異なることに抵抗を感じる児童の割合が多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- パワーアップタイムを利用し、基礎・基本の定着、向上を図る。
- 「話し合う活動」が苦手な児童が多いので、話し合い活動を計画的に取り入れ、指導する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭学習チャレンジハンドブック」等を活用して家庭学習の指導・支援を行う。
- 学校通信、学年通信、ホームページ等で啓発する。(早寝早起き朝ごはん、スマホやSNSの利用の仕方等)